

委員会基本方針・組織決定

昨年末の死刑執行に改めて抗議声明

二月二十六日、第二十三回社会委員会が教団会議室にて開催された。



委員長に張田眞氏、靖国・天皇制小委員会委員長に西之園路子氏

出席者は張田眞（招集者）、上地武、柴田彰、土井しのぶ、長沢道子、日本キリスト教社会事業同盟、西之園路子、安田和人の七名と教団より担当幹事、担当職員である。

まず招集者の奨励による開会礼拝を行い、礼拝後に自己紹介、議事日程を確認後、早速に委員会組織に入った。結果、委員長に張田眞、書記に上地武を選任した。

続いて担当幹事及び担当職員より諸報告（A前期委員会よりの申し送り事項、B業務報告、C会計報告、

D常議員会報告、E日本キリスト教社会事業同盟、F日本キリスト教保育所同盟を受け、協議に入った。主な協議事項は次のとおりである。

①前期委員会からの申し送り事項である「社会活動基本方針」「憲法問題」「教育基本法」「全国社会委員長会議」「働く人」の廃刊」「社会福祉事業団体との協力および連絡」に関しては引き続き今期委員会内でも問題性を深め、研鑽を重ねながら担っていくこととした。

社会

会が担ってきた「死刑制度廃止」や「基地問題」「パレスチナ問題」「災害救援募金」等々に関しても、各委員からの提言を取り上げ、協議していくこととした。

また、昨年十二月二五日に行われた四名の死刑執行に関しては、改めて当委員会より抗議声明を出すこととした。

②各委員・役割担当では、宣教委員会は張田眞委員長、日本キリスト教社会事業同盟理事に土井しのぶ委員長、日本キリスト教保育所同盟理事に柴田彰委員、靖

国・天皇制小委員会委員長に西之園路子委員、社会委員会通信担当に安田和人委員、「社会事業奨励日」と「二・一一」の各々のメッセージ担当者を決めた。

また靖国・天皇制問題小委員会の委員として四名を選任し、二〇七年度社会委員会予算を確認した。（上地武報）

委員会の課題を確認

「宣教研究所規定」から見つめ直す

宣研

第35総会期第一回宣教研究所委員会が二月二二～二三日に委員七名全員が出席して開催された。

まず、委員会組織について協議がされ、委員長に内藤留幸、書記に宮本義弘が

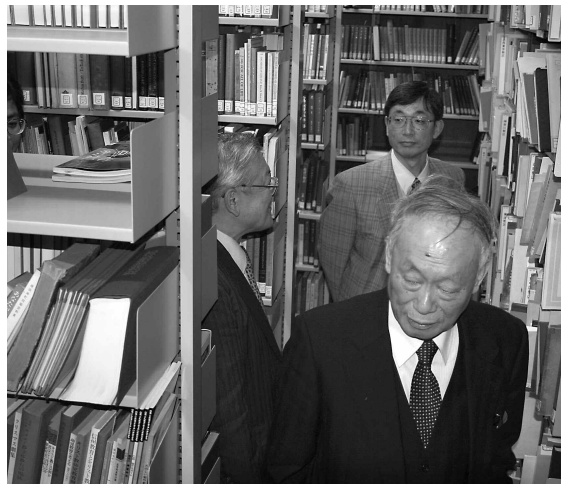
選出された。次いで、前委員会からの申し送り事項が協議され、宣教研究所設立五〇年を節目としての「宣教五〇年」の歩み冊子発行に関しては、前委員会が執筆者を決定し

ていたが、原稿が未提出であったため、再度原稿提出を願った上で発行することになった。

また、「東神大年表」研究会は継続とし、委員に山口隆康、近藤勝彦、芳賀力の各氏を再度委嘱することを決定した。続いて、「資料室」細則の立案を求められてい

たので、実務会で立案することとなった。また、「宣研だより」発行に関しては、〇七年度において、クリスマス前に一回発行することにした。

以上のような申し送り事項等を処理した後で、今期の活動方針の協議に入ったが、新しく委嘱された委員が大半であるため、キリスト教会館内にある第一～三資料室の見学を行うことから始め、膨大な資料の整理を痛感した。



委員長に内藤留幸氏、資料室を見学

共に育つ子ども・幼児・礼拝と賛美の響き

美歌に出会い、その祈りを共に歌うひとときがありました。

奥羽教区では毎年「キリスト教幼児施設教職員修養会」という集いを開催しています。保育園や幼稚園、その他教会関係の諸施設に勤める方々と、広く全教会にも開かれた学びと交わりの場として実り豊かに開催してきました。今年は三三回目になります。

本質に関わる子ども・幼児礼拝の深い意味を見つめ直し、未来の世界を生きていく子どもたちと共に育つ子とともたちと共に育つ和の賛美を響かせようとし、一月五～六日に花巻の志戸平温泉で開催しました。参加者は七五名でした。

二日目は朝の平和への祈りの後、「改訂子どもんびか」を用いて先生の解説と奏楽でたくさんさんの賛美歌を大きな声で歌いました。それは「改訂子どもんびか」の中に収められ、深い平和への祈りが込められた素晴らしい賛美歌に出会い、

二日目は朝の平和への祈りの後、「改訂子どもんびか」を用いて先生の解説と奏楽でたくさんさんの賛美歌を大きな声で歌いました。それは「改訂子どもんびか」の中に収められ、深い平和への祈りが込められた素晴らしい賛美歌に出会い、

近年共通した

テーマとしては「共に育つ」を基本にきていま

講師には教団讃美歌委員で、仙台北教会のオルガストでもある川端純四郎先生をお招きしました。開会礼拝の賛美とメッセージに続いて、講演で先生は、子どもたちに「明るい未来を」というテーマで、聖書の視点から、人

今回の集いの最後は、感動的で豊かな開会礼拝の時を共に守ったことで、教えて頂いた平和の賛美歌を取り入れた礼拝では、一人の「戦争と平和の語り部」の静かな証しの言葉に涙し、心を揺さぶられました。

分団での分かち合いに続いて、希望者への奏楽者ワンポイントアドバイスも企画されていました。が、初心者からベテランまで、先生の優しい指導と助言が大好評でした。

好評だったワンポイントアドバイス

花巻教会員の三田照子さん（九〇歳）は、旧満州国からの引き揚げの混乱と悲惨の現実を語り継ぐ動きを各地で続けておられますが、孫のような若い参加者の心のなかに「平和」という尊い種が時

かかれた礼拝でした。子どもたちこそが私たちの未来そのものであり、その子どもたちと共に、これからも平和の賛美を響かせよう、各地へ散らされていきます。



好評だったワンポイントアドバイス

各個教会に届く働きを

教会教育セミナーの開催を検討

教育

第35総会期の第一回教育委員会が、二月十九～二〇日、教団会議室にて開催された。

今回は、前総会期委員約半数が継続（委員長、書記を含む）さらにかつての委員を含め、四人が経験者という恵まれた人選であった。新任者を含め、教団上の教育委員会の位置づけ、性格を確認し、今まで積み重ねてきた教育委員会の働きを顧みつつ、教団の教育委員会が望ましいあり方について、まず協議した。教

育委員会が各個教会の教育プログラムを支えていくために何ができるか。この課題に今期も変わらず取り組み決意を新たにしました。

組織会では、委員長岸憲秀（東京教区・千葉本町教会）、書記加藤誠（東海教区・静岡一番町教会）を再度選出し、また、広範にわたるそれぞれの働きのための担当を決めた。

委員会の主たる協議事項は以下のとおり。第一として教会教育プログラム。これは季刊「教師

の友の骨子となるもので、今回は二〇〇八年からの新しい三年サイクルを準備する年であるので、委員全体で協議した上で、五名の担当者に検討を委ねた。

第二は、各個教会に届く働きとして何らかの形の教会教育セミナーを開催したいと願い、かつての公開教育セミナーを、より明確な教会教育のためのセミナーとして改め、各個教会のCSRリーダーなどを対象とした研修の場として開催したい旨を話し合い、具体的に

第三は、キリスト教教育主事養成のあり方について懇談した。周知のとおり、養成校である聖和大学と西学院の合併を踏まえて、教団としての主事養成のあり方について協議を重ね、また、両校の状況を見守り、必要に応じて懇談をするなどの意見が出された。

また、継続支援してきたアイヌ奨学金について、今後のあり方について協議し、子どもたちの献金のふさわしいあり方についても意見交換がなされた。

（加藤誠報）

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

「伝道奨励準備金」原案可決

高柳議長・藤盛副議長再選

川 奈 神
会 区 教

第二七回神奈川教区総会が、二月二四日、清水ヶ丘教会を会場に行われた。宗野鏡子氏の司式により開会礼拝が行われた後、正議長選挙に入り、予備投票員二四名中、一七一名で

総会は成立。一日の日程の中で議長、副議長選挙と常置委員選挙が行われた。組織会に続いて、まず議長選挙に入り、予備投票員二四名中、一七一名で

教師の准允執行に関する件「正教師の按手礼執行に関する件」が上程され、三名の准允受領志願者と四名の按手礼受領志願者が所信表明を行った。質疑を経て両議案は可決され、直ちに高柳竜二議長の司式により准允式と按手礼式が執行された。

屋の休憩前に、教区互助募金委員長寺尾康弘氏のアピールと呼びかけによってカンパが行われ、教職謝儀互助のために十八万円余が献げられた。なお、これは前回の一〇倍を超える金額である。神奈川教区では、互助資金は教区負担金の内から交付されていたが、二〇〇二年度から資金の半分は募金で賄うこととした。しかし、過去五年の実績で



高柳竜二議長の司式により准允式執行

第二一回東海教区信徒修養会が、二〇〇七年三月五日〜六日にフルーツパーク富士屋ホテル(山梨市)を会場に開催された。東海教区では毎年三月に教区伝道

東海教区信徒修養会に四四教会一七一名

「み言に聴き、祈る―伝道する人の問題―」

部主催の信徒修養会を行っている。今年は小島誠志牧師(松山番町教会・前教団総会議長)を講師に迎え、「み言に聴き、祈る―伝道する人の問題―」という主

題のもと、二日に分けて講演を伺った。副題は年によって変わるが、「み言に聴き、祈る」というメインテーマは毎年変わらない。イトルは毎年変わらない。毎回一〇〇名を超える参加者が与えられるが、今年は

四国教区 四国の宣教は 四国のみんなで 野村 忠規

去る二月二六日・二七日、第三九回宣教方策会議と第五回常置委員会が開催された。会議の一番の話題は「2008年問題」であった。これは2008年度に予想される「互助と自立連帯献金の困難」をどのように乗り越えて行くのかという問題である。

教区 コラム

であった。後者の資料は同委員会が一年かけ、互助と自立連帯献金が具体的な諸教会の現場でどのよう受け止められているかの調査、また四〇年の歴史の振り返りを通して、この運動が四国教区を形成する大切な働きであったと評価し、今後に展開して行こうと語り合った。



例年にもまして多くの参加者



信徒の証、木村みやま姉

一日目、夕食後の時間は信徒による「証しと讃美」のひとときを守る。江口久美子さん(沼津教会)のテンポの良い確なリードで、全員で「讃美歌21」を次から次へと歌い、その後二人の信徒の証を聴く。

一人目は、十三歳から働き始め、周りの先輩から入をだまして売ることを教わったが、その後その仕事を離れ、二〇歳の時教会で洗礼に導かれたという澤田政美さん(伊那坂下教会)。そ



講演の最後に、ハーマニカの演奏を披露する小島誠志牧師

《宣教師公募》
◎任地ドイツ、ケルン・ボン日本語教会
◎任務Ⅱ宣教師
◎条件Ⅱ教団正教師・赴任後ケルン市在住・独語または英語力要他
◎任期Ⅱ四年八ヶ月
◎応募締切Ⅱ二〇〇七年五月十日
◎面接Ⅱ五月十八日
◎詳細問い合わせⅡ世界宣教委員会(Tel.03-3202-10544)

消息

千葉 蔵氏(無任所教師)



一月三十一日、逝去。八二歳。東京都に生まれる。一九九八年准允受領後、日野原記念上尾栄光教会に赴任し、二〇〇六年まで牧会した。遺族は妻のトモ子さん。

訂正・お詫び
教団新報4621号2面、「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会の報告中、(4)の記事を、次のように訂正致します。
誤 (4)十日町教会Ⅱ山本愛泉保育園の工事は完了。牧師館の再建工事について、契約額の減額交渉の関係で、今夏着工を断念し、計画の再検討を行っている。
正 (4)十日町教会Ⅱ山本愛泉保育園の工事は完了。牧師館の再建工事については、今夏の着工に向けて進んでいる。(訂正箇所傍記)

主の召しに応えて

伝道のともしび

み言に立てられ、み言を語る

京都西田町教会伝道師 信岡 茂浩

京都西田町教会は東山の大字字麓近くに位置している。此処を初めて訪れたのは十年ほど前のこと。徒歩三五分の距離だった。遙か大韓民国からこの教会の礼拝説教が放送されていた。

私は特別養護老人ホームのパート宿直員をしていた。夜勤のケア・ワーカーとは比較にならないが、十五時間と四五分の週三回は短くはない。無事に明けた夜も五時を過ぎると朝刊を待つ人が玄關に来る。

昼間は、ぼんやり、してしまふ。そんなわけで、学校のパート職が

ない日は隣接の日本バプテスト病院で「お昼の礼拝」に出た。或る日、FEBCの番組表を手渡して熱心に勧める人がいた。闘病生活を送るその青年は篠田清さんといった。

主日がラストスパートになる終始転倒で無休の日々を重ねてきた。平日は商品積載作業の常勤パートに往復三五キロを自転車を通い、土曜に特養の宿直に入り、翌朝になって教会学校へ走る。目下は無給の伝道師である。担任教師として役員の皆様と共に、自宅療養中の牧師に仕えている。

①

①

②

②

③

③

④

④



神学研究会の後、京都西田町教会小講堂にて

以前からの担当である神学研究會は、『ハイアルベルク信仰問答』を学び始めた。また、去年のクリスマスより説教を月一度させてもらえることになった。リュックで本を担いで行き宿直中の待機時間に準備する。話も文も不評である。今一番嬉しく思っているのは研修会に参加できるようになったこと。費用も教会から援けていただいている。長いあいだ深く閉じ込められていたのが、遂に明るい広場に飛び出したような喜びである。

神学校が思いも及ばない者に応召の道はCコース以外ない。しかし具体化のめどがなかった。転会先の杉田太一牧師がCコース出身と聞き決意を新たにしたが、学校の仕事は消え、学生時代のアルバイト先を身を寄せた。「バイト」とは日雇いの「蔑称」であると思いついた。

転機は外から来た。後輩の父上である大橋弘牧師がCコース指導の達人（後日Cコースの会にて聞き及んだ）で千葉から京都に越して来られた。杉田先生の下、大橋父子の助力を得て第一年次の

下さった方々が、まばゆく脳裡を巡った。『起て！』。駆けつけた弟の送迎により面接を終えた。病院の検査と医師の記憶がない。三月一日朝、伏見工業高校の校門に「卒業式」の看板が立っていた。その午後、トントン車あおり上り作業中に落下、左かかとを粉砕した。

六日、転院した五階の病室から青空が見える。夜十時頃、もう何年も聴かなかった放送を受信した。大きな雑音の波間から「創世記一章三節」と聞こえて来る。「神は言われた。『光あれ。』」

翌朝、切り忘れた携帯が震えている。「篠田です。今から西田町教会へ行っていいですか。誰もいないし自分は入院して手術を待っている」と告げた。「没薬と乳香が手に入ったんで。持って行きたいんですが。これは葬りの用意か。是非、持ってきて下さい。で、黄金はないですね。」

京都西田町教会は四季の彩りに恵まれ「京都が一番美しい処にある教会」（杉田牧師談）かもしれない。『草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ』。追わされた集會に育まれた正教師を目指し学び続けたいと希っている。

⑤

⑤

森は海の恋人

第四三回東海教区農伝協議会



講師、畠山重篤氏

第四三回東海教区農伝協議會が二月二六日から二七日にかけて、伊豆長岡で開かれた。主題は「海の恵みは森の恵み」自然の恵みを求めて。講師は畠山重篤氏。彼は気仙沼（宮城）で父の代から力キの養殖を手がける漁民。バプテスト気仙沼教会員である。

◎講演要旨

高度経済成長期に気仙沼湾に異変が起きた。のり、帆立、力キの減産が著しくなったのだ。畠山さんは、南仏視察旅行とある大学教授との出会いから不漁の原因を知った。自然の荒廃がその原因であった。森が荒れ、田畑は農業漬けとなつて小さな生物たちは死滅した。そして海には赤潮などが発生して養殖漁業は大打撃を蒙った。また力キの餌になるプランクトンは川上の広葉樹の落葉が育てていることを知ったのである。

彼は「力キの森を慕う会」を組織し、「森は海の恋人」を合言葉に、気仙沼湾に注ぐ大川上流の山に大漁旗を翻して植樹運動を始めた。運動は小学生や中学生にまで広がった。

難関もあった。縦割り行政のため、責任が不明であったり、問題をたらい回しにされたのである。縦割りの弊害は学問の世界にもあった。林・農・水産の各研究者は、タコ壺的世界に閉じこもりお互いのことを知らなかったのである。

息の長い運動であったが山に緑がよみがえり、海に力キが帰ってきた。東北からの発信は、小学や中学の教科書に採用され、山・川・海を俯瞰的に見、その連関を大切に考えるは、21世紀の文明モデルになると言われるまでになった。

最後に、運動の基本は「人間の問題である」とキリスト者らしい感想で講演を締めくくった。

◎感想

講師は漁民の視点に立ちつつ、自然の連関性を大局的に把握し地球規模の考察を行っていた。また、運動はきわめて柔軟で協動的であった。なにより次世代にまで運動の輪を広げているのがすばらしい。出席者は、深い感動を覚えつつ講演に耳を傾けた。出席者六六名。（岩本二郎報）

⑥

⑥

ひととき

こもだ 菰田 ひろえ 恒恵さん

ありのままに生きる



1943年福井県金津町で山崎久右エ門の次女として生まれ幼児洗礼に与る。飯能教会員。

名前の「恒」は、五十四年度版讃美歌八二番の歌詞「ひろしともひろし」から名付けられた。幼稚園の時に養女となるが、養父母の下で何となく自由なく成長し、高校三年生の時に疑い迷うことなく城之橋教会で堅信礼に与った。高校卒業後、武蔵野音楽大学に入学する際に学生寮に入り損ねたが、旧知の飯能教会初代牧師藤原政太郎氏の計らいで飯能教会に下宿することになった。そこで現在の夫宇市氏との出会いがあり、主の御心がそこにあった。大学卒業後は、河合楽器音楽教室にピアノ教師として入社、二十四歳で結婚し、以後飯能教会員として仕える。

教会では、奏奏者として礼拝委員会、奏奏者の会を牧師と共に

に組織し、心に響く讃美を、と他の奏奏者や聖歌隊を指導して教会音楽の向上に努めている。更に婦人会長を務め、講壇の生け花を一手に引き受けている。また、毎週金曜日夜、外部に向けた「うたいまじょうさんびか」の会を主催し、多くの人を教会に招いて宣教の一端を担っている。

九三年五月、埼玉地区「礼拝と音楽を学ぶ会（後に教会音楽委員会）」の発足当初から委員（現在も現役）として尽力し、地区婦人部書記、地区伝道委員等の働きをも担ってきた。養父母と叔父叔母、姑の五人を介護する中で、末期癌でホスピスに入っ

今頃多くの教会で三月定期総会が開催されていることだろう。各個の教会の業がさらに祝福の実を結ぶよう祈ってやまない。

どの総会でも新年度の伝道計画、伝道体制、役員選挙、そして会計予算の審議がなされることだと思ふ。これは全体教会としての教団総会でも、教区総会でも同じことだ。

ただ全体教会の総会の場合「伝道計画」について共に考え、折り、ビジョンを語り合う時が少ないのではないかと感ずる。

教団並びに教区にとっての大きな課題である、教勢不振、次世代たる青年、青少年さらには教会学校生徒の減少、さらには若年献身者不足、これらは教団の現状と将来にとって愁眉の緊急課題である。

やがて教区総会が近づいてくる。そこで何となく「伝道計画」について共に取り組みたい。それは伝道協議会などで取り扱えばよいという勿れ。教会会議としての総会でこそ取り扱うべきことだろう。なぜなら教会は伝道のために召されているのだから「伝道計画」を最重要事項として取り組まざるをえないのだ。

（教団議長 山北 宣久）

伝道計画

今頃多くの教会で三月定期総会が開催されていることだろう。各個の教会の業がさらに祝福の実を結ぶよう祈ってやまない。

どの総会でも新年度の伝道計画、伝道体制、役員選挙、そして会計予算の審議がなされることだと思ふ。これは全体教会としての教団総会でも、教区総会でも同じことだ。

ただ全体教会の総会の場合「伝道計画」について共に考え、折り、ビジョンを語り合う時が少ないのではないかと感ずる。

教団並びに教区にとっての大きな課題である、教勢不振、次世代たる青年、青少年さらには教会学校生徒の減少、さらには若年献身者不足、これらは教団の現状と将来にとって愁眉の緊急課題である。

やがて教区総会が近づいてくる。そこで何となく「伝道計画」について共に取り組みたい。それは伝道協議会などで取り扱えばよいという勿れ。教会会議としての総会でこそ取り扱うべきことだろう。なぜなら教会は伝道のために召されているのだから「伝道計画」を最重要事項として取り組まざるをえないのだ。

（教団議長 山北 宣久）

⑦

⑦

⑧

⑧

⑨

⑨

⑩

⑩